

## 審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2938 号	氏名	前山 泰彦
審査担当者	主査	赤木 由人	(印)
	副主査	矢野 博久	(印)
	副主査	八木 美	(印)
主論文題目： Prediction of colorectal tumor grade and invasion depth through narrow-band imaging scoring (NBI スコアリングによる大腸腫瘍の質・深達度診断)			

### 審査結果の要旨 (意見)

大腸腫瘍の質的診断は組織診断にて確定できるが、癌と診断された場合でも深達度は内視鏡による客観的評価は困難である。しかしながら早期癌の深達度診断は、その治療方針において極めて重要である。これらの補助診断として **narrow band imaging (NBI)** が用いられるが客観性に欠けていることには変わりない。本研究では内視鏡による重要度所見と組織学的所見からスコア化することで客観性を含んだ診断を行い、それが質的診断や深達度診断の予測可能かどうかの検討をしたものである。腫瘍の異形度や深達度は著者らの判定によるスコアが他の診断より有用であることを示し、今後の内視鏡治療の判断に寄与する可能性が示唆された。しかし、内視鏡所見の判定そのものが主観的なものであり、術者による不一致が危惧され、他の集団での再試験や前向きな調査や評価で、本研究の妥当性を確認する必要がある。

### 論文要旨

本研究の目的は、大腸腫瘍の内視鏡診断における拡大 **NBI** 所見をスコア化することが、異型度および深達度の予測に有用か否かを検討することである。大腸腫瘍 161 病変 (腺腫 81 病変、癌 80 病変) を対象とした、**NBI** 拡大観察での **surface pattern** および **vascular pattern** の所見と、病理組織での異型度 (腺腫 or 癌) および浸潤度 (**SM** 浸潤距離  $<1,000 \mu\text{m}$  or  $\geq 1000 \mu\text{m}$ ) との関連性を多変量解析し、異型度および浸潤度の予測モデルを作成した。さらに **NBI** 所見と病理組織構築の関連について検討した。異型度診断において癌との関連がみられた項目は、**surface pattern** 中の整・不整 ( $p < 0.0001$ ) と **vascular pattern** 中の無血管域 ( $p = 0.0600$ ) であった。深達度診断において **SM** 深部浸潤癌との関連がみられた項目は、**vascular pattern** 中の血管途絶 ( $p = 0.0714$ ) および太い血管 ( $p = 0.0133$ ) であった。異型度診断の予測モデルでは、合計得点 1 点以上を癌とした場合の診断能は感度 0.97、特異度 0.24 であった。深達度診断予測モデルでは、合計得点 9 点以上を **SM** 浸潤距離  $\geq 1000 \mu\text{m}$  とした場合の診断能は感度 0.56、特異度 1.0 であった。今回選択した **NBI** 所見の項目と腫瘍部の組織構築の間にも深い関連が認められた。今回提案した **NBI** 所見のスコア化は、大腸腫瘍の異型度および浸潤度の予測に有用な指標で、治療方針の決定にも応用できる可能性が示唆された。